

教育目標		豊かな心 すこやかな体 人とかかわる力 ー自然いっぱい、笑顔いっぱい みんなのせつよう幼稚園ー					
重点目標		1・豊かな心もち、すこやかな体・人とかかわる力を育てる保育を推進する		2・地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
教育課程	・教育目標の達成に向け、24ヶ月を見通した指導のポイントを入れた教育課程の見直し	・教育課程の中の「学びへの意欲を育む」ための具体的な指導のポイントを今年度の幼児の姿や保育実践から見直しを行う。	・教育課程を学期ごとに見直し、今年度の保育実践を反映させる。 ・保護者アンケートにおいて「お子様は自然とかかわって遊ぶことが好きである。」「お子様は友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。」と回答した割合が共に85%以上になる。	4	・教育課程の見直しは2学期に行うことができた。 ・アンケート結果はそれぞれ97%、97%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。	・教育課程担当者が中心となり、見直した内容について職員間で共通理解する。	・今後、少人数ならではの教育課程編成の工夫をされたい。
	・保育方法の改善と工夫(子どもの好奇心・探究心)を支え、小さな成功体験につなげる環境構成と教師の援助を探る)を図る。	・年間5回講師を招聘し、園内研究会および伊丹市指定研究発表会を行う。 ・試行錯誤する遊びの年間カリキュラムを作成する。 ・平成28年度以降のエピソード記録や実践事例の分析を行う。	・カリキュラムの作成を通して、年間を通して幼児がどのような試行錯誤を経験し、小さな成功体験をしているのかを明らかにする。 ・小さな成功体験を通して学びへの意欲をもつ幼児を育てるための、環境構成や教師の援助をまとめ、保育実践力の向上につなげる。 ・保護者アンケートにおいて、「子どもは幼稚園で好奇心や探究心をもって過ごす中で、「やった」「できた」「楽しかった」という成功体験を得ている」「幼稚園は、教師が協力して教育活動にあたり、保護者の願いにこたえている」と回答した割合がともに85%以上になる。	4	・試行錯誤する遊びの年間カリキュラムを作成し、幼児が園でどのような試行錯誤を経験し、小さな成功体験をしているのか、具体的な遊びの姿から再確認することができた。 ・小さな成功体験を通して学びへの意欲をもつ幼児を育てるための、環境構成や教師の援助をまとめ、市指定研究発表会において発表を行った。 ・アンケート結果はそれぞれ97%、97%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。	・今年度作成したカリキュラムに基づき、保育を実践・展開しながら、試行錯誤を通して幼児に育まれる学びや育ちは何か、幼児の学びを深めるための環境の構成はどうかなどを検証し、さらなる保育実践力の向上に努める。	・市指定研究発表会で三年間の保育の取り組みをまとめられたことは大きな成果である。
	・個別指導計画の有効活用。 ・保護者との連携強化	・子どもの実態に合ったねらいや支援方法を具体的に検討し、個別支援計画を作成し職員で共通理解を図る。 ・園や家庭での様子の情報交換を密にする。	・学期のはじめと終わりに、個別指導計画作成しをもとに、職員全体で話し合いを行う。 ・個別指導計画を基に学期のはじめと終わりに保護者と懇談を行う。 ・学期に1回、チューリップ学級の保護者懇談会を行う。	4	・学期ごとに個別指導計画を作成し、職員全体で話し合うことができた。 ・2学期からは個別指導計画を保護者に開示し、それをもとに保護者と懇談することができた。 ・学期に1回、チューリップ学級の保護会を開催することができた。	・一人一人の子どもの実態に応じた指導計画の立て方について検討する。 ・具体的な支援方法について職員全体で共通理解を図る。	・一人一人の子どもを丁寧にみながら保育していることがよくわかった。今後も継続して行ってほしい。
豊かな心・健康教育	・心身ともに健やかな幼児の成長をめざし、保育内容に律動や運動遊びを取り入れる。	・幼児自身が体を動かす楽しさを感じられるように、律動や運動遊びを保育に取り入れて実践していく。 ・参観日などで、親子一緒に運動遊びを楽しめる保育を行い、保護者とともに実践し、啓発していく。	・運動遊び指導員を招聘し、幼児の発達段階や興味に応じた運動遊びの指導を依頼し、保育に取り入れる。 ・夏休みや冬休みの長期休暇に親子で実践できる、体を動かす親子遊びプリントを配布する。 ・保護者アンケートにおいて「お子様は外遊びや身体を積極的に動かすことが好きである」と回答した割合が85%以上になる。	4	・土曜参観日に指導員を招聘し、親子で楽しく運動遊びを行うことができた。運動会前には隣接する小学校の先生からリレーの走り方を教えてもらい、より意識して体を動かすことができた。また、キッズエアロビクスなど今まで経験の少ない動きにも楽しく取り組むことができた。 ・夏休みには体を動かす親子遊びプリントを配布し、冬休み前にはがんばりひょうを通して外遊びを奨励し、雨天時には室内でできる親子遊びにも取り組んでもらうことができた。 ・アンケート結果は97%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。	・今後も幼児の実態に応じ、年間を通して体を動かす楽しさを感じられる遊びを計画的に取り入れる。	・子どもの興味関心を踏まえて、継続的に行うことが大切である。保護者とも連携して行ってほしい。

開かれ信頼できる園	危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルに沿った避難訓練の実施。 個人情報の保護・管理の徹底 安全に活動できる環境の整備・管理の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> 火災、地震、防犯等あらゆる災害を想定し避難訓練を実施し、防災意識の向上を図る。 個人情報の管理システムの構築と危機管理意識の向上を図る。 保護者とともに、環境整備に努める体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の避難訓練と引き渡し訓練を実施する。 個人のプライバシーにかかわる事案がある場合は、その情報の徹底管理及びチェックを行う。 P T Aのひまわり活動を年回12回計画実施する。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は子どもの生活や遊びの場としての環境を整えている」と回答した割合が85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練では、あらゆる災害に対応できるように計画・実施できた。幼児の意識向上につながっている。 個人情報の保護については、年度当初保護者にも紙面で提示に、意識向上、保護に努めた。 清掃習慣を(1週間程度を2回) 設け、保護者の負担感を軽減した。 アンケート結果では、97%の肯定的な回答を得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の環境整備については、PTA、保護者、まちづくり協議会など地域の協力を得ながら推進していく。 保護者の負担感を軽減し、ひまわり活動の有効的なシステム等検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達のために教育環境を整えられている。職員数も少なく、保護者の協力なしには行えないと思うが、双方に負担感なく地域とも連携を図りながら行ってほしい。
	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子育て支援センター的役割や機能を充実させる。 積極的に園の教育活動について情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日園庭開放を実施し、子育て相談に応じる。 預かり保育(せつようタイム)を実施する。 未就園児交流「ちびっこ交流会」を、計画・実施する。 未就園児サークル、シニアサロン等、場の提供を行う。 ホームページを月に3回以上更新し幼稚園の様子を発信する。 クラスだより、園だより等、本園教育の発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の園庭開放を実施する。 預かり保育(せつようタイム)を年間9回行う。 未就園児交流「ちびっこ交流会」を地域に広く呼びかけ、年間10回以上実施する。 ホームページを月3回以上更新する。 未就園児サークル、シニアサロン等、場の提供を行う。 クラスだよりを月1回発行する。また、園だより等、定期的に発行し、本園の教育について発信する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 園庭開放には、多数の園児・保護者が利用している。 預かり保育「せつようタイム」は、年間11回実施することができた。 今年度新たに取組んだ未就園児親子の交流「ちびっこ交流会」は、年間11回実施した。参加者が延べ26組の参加があった。 ホームページは、毎月10回以上更新することができた。 未就園児サークル「ちびっこサークル」とシニアサロンに場の提供はできたが、今後は、交流等も検討していく。 本園の教育発信については、今後も工夫していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育「せつようタイム」は、幼児の多様な経験の場となるように内容の充実を図る。 「ちびっこ交流会」への参加実績を積み、情報発信、内容の充実を図る。 シニアサロンの方との交流を企画、実践する。 掲示板、啓発紙、クラスだより等、タイムリーに実施する。 小学校との接続に向けた連携・交流の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の未就園児との交流は今後も継続してほしい。園児にとっても、異年齢児との関わりや地域の方とのかわり、貴重な体験として積まれていく。 学びの連続性、就学時のなめらかな接続は必要だ。園児だけでなく保護者の安心感にもつながっている。
幼児期・学校教育の推進	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者への人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、相手を思いやる気持ちや自分を大切にすることを養う。 保護者に人権研修の参加を呼びかけたり、人権懇談会を開いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対し、人権研修会への参加をすすめる。 相手のことを思いやる気持ちをクラス場で設けたり、じっくり幼児の思いを聞いたりする機会をつくる。 保護者アンケートにおいて、「子どもは幼稚園で、自分を大切にすることや、友達との関わり方、他への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 約80%の保護者が人権研修会に年1回以上参加した。 日常生活から幼児の気持ちを聞き、特に幼児同士の思いの衝突があった時にはじっくり互いの気持ちを聞く時間を設けた。 アンケート結果は97%の肯定的な回答を得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の園生活の中で、一人一人の思いを大事にした保育を推進し、仲間関係を育むクラス経営を行う。 研修会への参加推奨や人権懇談会を今後も実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数だからこそ、全職員ですべての子どもを見ていくことで人との関わりが深くなるような保育を展開して欲しい。
<p>学校関係者総括</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度取り組まれたことを継続するにあたり、職員間の連携、保護者の協力、地域、小学校等関係箇所と連携を図りながら教育を推進してほしい。 								
<p>次年度に向けた重点的な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 4・5歳児の発達過程に応じた保育活動と、異年齢児の保育活動を工夫し、本園ならではの教育課程をマネジメントしていく。園児・保護者・地域(小学校・未就園児含む)の連携強化。 								